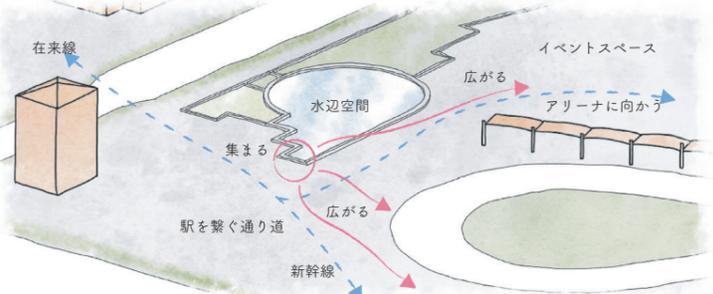


site1 矢総公園

邪魔とされる噴水や人気がない公園は、人が集まるのに多くのポテンシャルがあると考え、人々が集まり自由に振る舞う空間を目指す。



にぎわう水遊び (通常時)
 きらめく水辺に魅了される。水に入って遊ぶもよし。ゆらゆら揺れて眺めてもよし。川床のように足をぶらさげてもよし。遊び心をくすぐる大らかな遊び場となる居場所。



縁の下の力持ち (イベント時)
 机を置けば受付になり、ハンモックを吊るせば椅子になるようにボックス一つ一つが自由に振る舞い、イベントに必要な機能を担っていく。日陰を作る布の屋根は、子供が集まる居場所となるだけでなく、公園に色どりを加えて魅力的な空間になるだろう。目立たずとも大事な働きをする縁の下の力持ち。



コンセプト：仕掛けにより人々が自主的な遊び・憩う場を街に創る

とどまる
移動するだけになってしまっている広い道幅に単管の仮設的な滞留空間をもたらす。

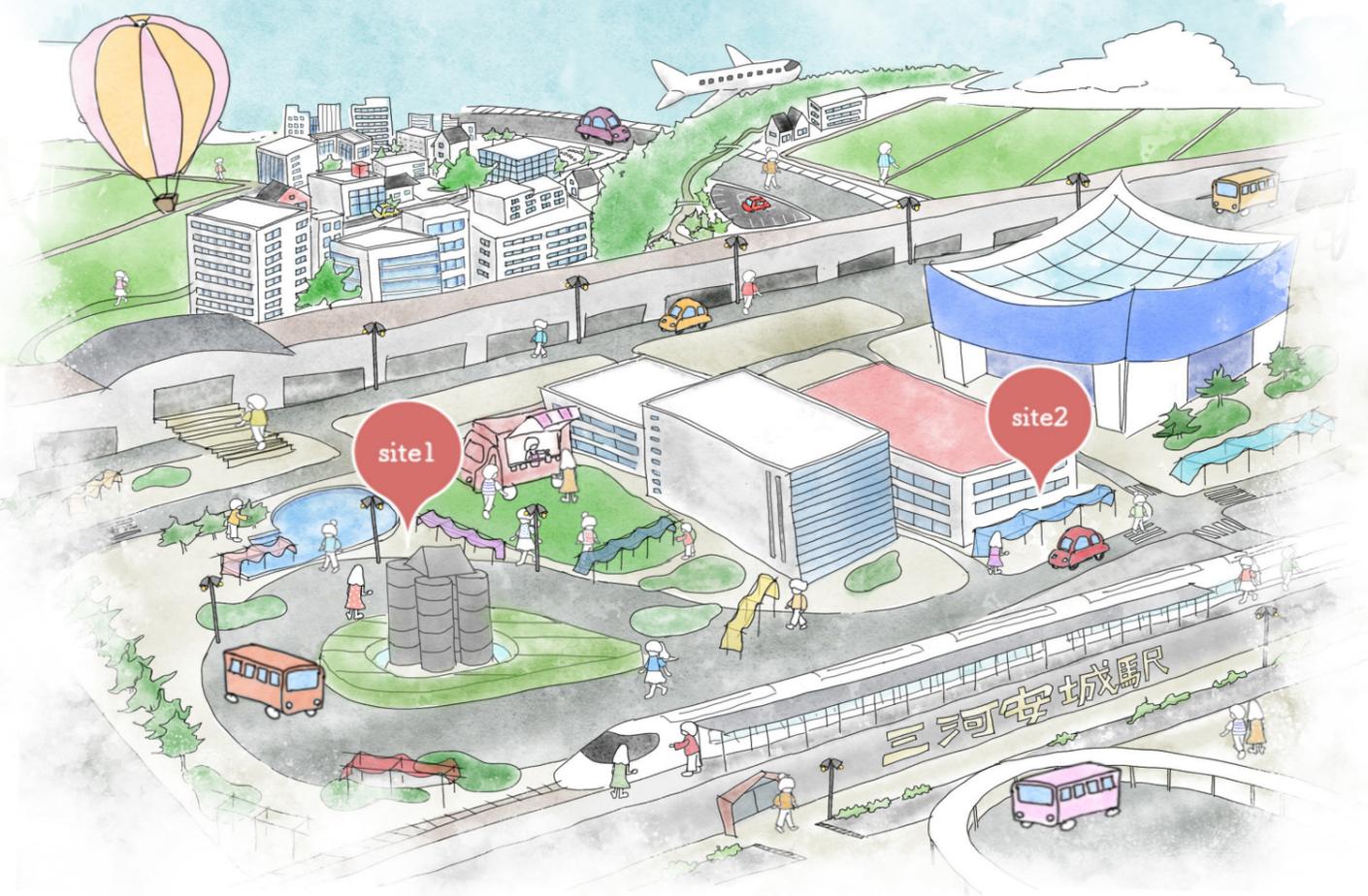
ねる
ハンモックが道にあることで、都市の中で揺れながら寝る非日常的な体験を生み出す。

すずむ
色とりどりの布の屋根が日差しを遮り、日陰が街に新しい居場所を提供する。

みつける
色がついた半透明な布がはためき、それを通して見慣れた街を新しい風景に変える。

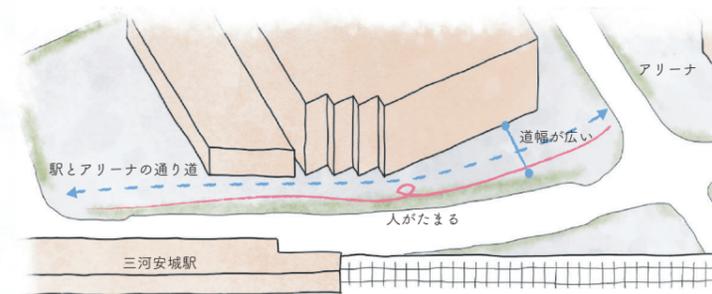
ゆらゆら ぱ〜く

まちやみちをあそび場に変える小さな仕掛け



site2 安城幸田線歩行空間

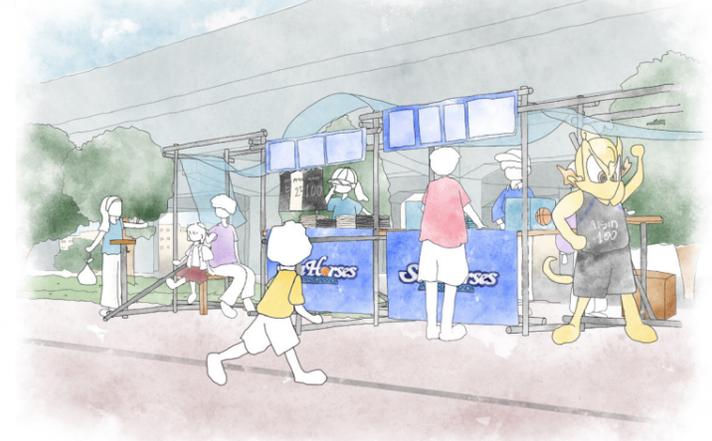
2026年アリーナが完成した後、来場者が増える。日常的にもイベント時でも通行だけでなく人が溢れて賑わう空間を目指す。



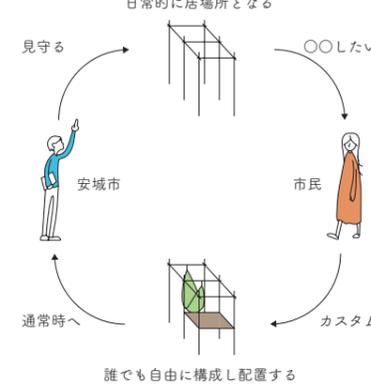
いつでも人が集まる道 (通常時)
 道幅の広い道にハンモックが揺れる。ハンモックに横たわりゆらめく時間は、当たり前歩いていた道をあそび場へと変えるだろう。人々が集まり、会話したり、一人時間を楽しむような自由な活動が見える。それらが日常化される道の新しい居場所。



試合前・試合後も楽しめる道 (イベント時)
 試合やライブなどの観客でにぎわう道。グッズやご飯が並ぶゆらゆらぱ〜くを見て、来場者の期待度は上がっていく。試合後、帰路につこうと駅に向かうと、余韻に浸る集まりがある。非日常のイベント用に変身して大盛況の居場所になる。



関連図



設置容易性

・フレームを組んだ状態で保管・搬入を想定した設計により迅速な設置を可能にする。
 ・各フレームは、成人男性2人での持ち運びが可能である。
 ・すべての設置は3人で可能である。

①門型をつくる

1m (赤)
1.5m (青)
2m (緑)

②ヨコ材(下)を取り付ける

ヨコ材(下): 1.5m材

③ナメ材を取り付ける

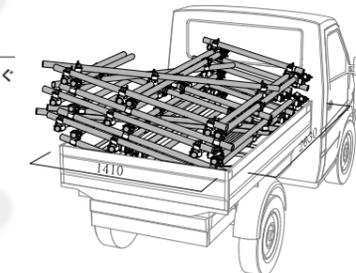
ナメ材(下): 1.5m材

④フレームどうしをつなぐ

ヨコ材: 2m

移動容易性

単管パイプを最大2mに抑えたフレームで構成することで、軽トラックでの搬入・搬出を可能にし、日常的な移動を容易にしてあらゆる場所で多様な展開ができる。



柏ストリートパーティー (9月)

UDC2が主催した公道を歩行者天国にしたイベントにて実装した。購入・搬入・設置・使用・解体の経験から、スムーズな三河安城市での実装が可能である。

